

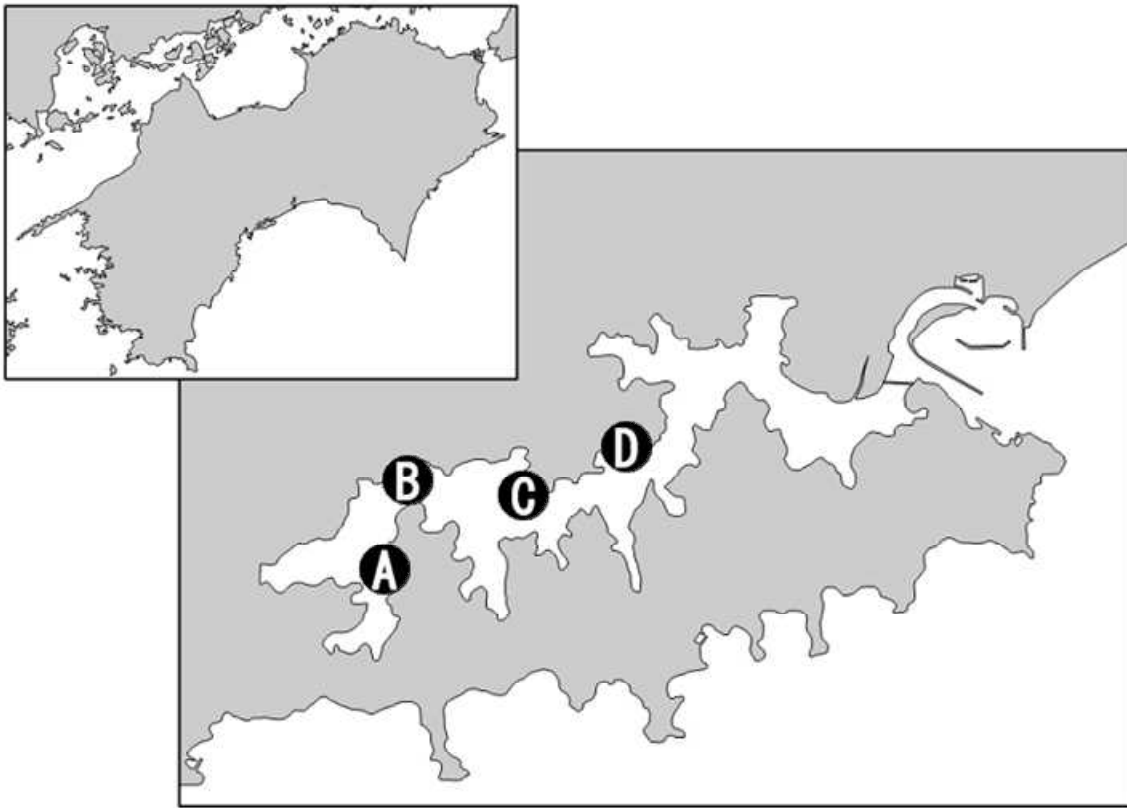
環境調査結果のお知らせ

令和6年5月17日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なカレニア・ミキモトイが1 cell/mL、シャットネラ属が最高で16 cells/mL、コクロディニウム・ポリクリコイデスが最高で3 cells/mL確認されました。これまでにシャットネラ属は10 cells/mLを超えてから4～15日で漁業被害が想定される密度（100 cells/mL）に達する傾向がありますので、十分注意してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	珪藻
A 鳴無 (2.5m) 【09:49】	0	20.9	25.0	9.1	0	0	0	35,200
	2	22.6	27.5	9.9	0	0	0	2,200
	5	22.3	30.1	8.5	0	14	0	24,100
	底層 8	21.2	30.5	5.5	0	16	0	12,300
B 中学校前 (2.2m) 【10:06】	0	22.4	25.8	9.7	0	0	0	27,300
	2	22.2	27.1	9.4	1	0	3	47,300
	5	21.9	30.0	8.9	0	0	0	15,400
	10	20.7	30.6	4.9	0	2	0	20,400
	底層 11	20.7	30.7	3.9	0	1	0	12,400
C 目ノクツ (1.9m) 【10:28】	0	21.5	24.9	9.8	0	0	0	49,000
	2	22.4	28.3	9.5	0	0	0	41,900
	5	21.2	30.0	7.8	0	0	0	6,800
	10	20.5	30.6	4.7	0	0	0	15,800
	底層 15	19.5	31.2	0.8	0	0	0	700
D 光松 (1.8m) 【11:02】	0	22.1	25.4	9.5	0	0	0	47,700
	2	22.3	27.6	9.6	0	0	0	28,300
	5	21.1	30.0	7.4	0	0	0	12,700
	10	20.4	30.7	4.7	0	0	0	2,200
	底層 16	19.6	31.1	1.2	0	0	0	1,200



- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 光松

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキシサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。